



株式
会社

中山製鋼所

証券コード 5408

第119期
(平成24年度)

中間報告

平成24年4月1日から平成24年9月30日まで

CONTENTS

株主の皆様へ

▶ P. 1

連結業績の推移

▶ P. 3

連結財務諸表の概要

▶ P. 4

トピックス

▶ P. 5

会社の概要

▶ P. 6

株主の皆様へ

平素は、格別のご厚情を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

さて、当社の平成24年度上半期（平成24年4月1日～平成24年9月30日）が終了いたしましたので、事業の概況につきまして、ご報告申し上げます。

平成24年12月

代表取締役社長

藤井博務



事業の概況

当上半期におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要による緩やかな回復が見られたものの、円高の長期化、世界経済の減速、電力供給問題などにより、依然として厳しい状況が続きました。

鉄鋼業界におきましては、円高の長期化と国内製造業の海外生産シフトが継続するとともに、アジア鉄鋼需給の大幅な緩和をはじめ、高水準が続く輸入鋼材など、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような厳しい環境のもと、当社グループにおきましては、早期の黒字化を達成するため、あらゆるコストの削減を図るとともに、採算重視の営業活動に徹し鋼材製品価格の適正化などに努めてまいりました。

【鉄鋼事業】

鉄鋼事業につきましては、従来からの収益改善策である「鉄源の多様化と規格構成の見直し」、「電気炉材の適用拡大」、「中高級鋼の拡販」、「コスト削減」を推進してまいりました。本年7月25日に厚板工場を休止し、厚板の製造を新日鐵住金株式会社殿に委託することにより

下方弾力性のある体制を構築し、従来どおりの営業体制のもとで販売を継続しております。また、本年10月末を目処に進めてまいりました200名規模の人員削減につきましては、希望退職者募集、定年退職など自然減の不補充および他社への移籍を推進しました結果、約240名の人員削減を行いました。

これらの収益改善策を着実に実行してまいりましたが、海外経済の減速に伴い、国内鋼材需要も依然として低調に推移したため、鋼材販売量、鋼材販売価格ともに前年同期を下回りました。

鉄鋼事業の売上高は、前年同期に比べ127億6千1百万円減収の645億9百万円、経常損益は20億8千5百万円減益の41億1千8百万円の損失となりました。

【エンジニアリング事業・化学事業他】

エンジニアリング事業につきましては、鋼製魚礁の受注が季節的な要因で上期に集中しましたことや固定費の削減により、売上高は11億7千7百万円、経常利益3千3百万円で前年同期に比べ増収増益となりました。

化学事業につきましては、農薬の需要減により、販売量および販売価格が落ち込んだことなどにより、売上高は78億3千1百万円、経常利益6千4百万円で前年同期に比べ減収減益となりました。

以上の結果、当上半期の連結業績につきましては、売上高は前年同期に比べ128億9千4百万円減収の737億8千4百万円、営業損益は22億6千9百万円減益の32億9千7百万円の損失、経常損益は24億7千万円減益の41億8千3百万円の損失となりました。特別損益につきましては、特別損失に、厚板工場休止お

よび人員削減の合理化策の実行に伴い、退職給付費用3億7千5百万円と特別退職金2億2千7百万円を計上いたしましたことなどにより、四半期純損益は24億5千4百万円減益の46億6千2百万円の損失となりました。

当期の中間配当につきましては、財務状況の悪化を踏まえ、誠に遺憾でございますが、前期の期末配当に引き続き、無配とさせていただきます。

このような業績になりましたことにつきまして、株主の皆様には誠に申し訳なく、深くお詫び申し上げます。

今後の見通し

今後のわが国経済の見通しにつきましては、長期化する円高や欧州の債務危機、中国経済の減速など、引き続き先行きは厳しい状況が予想されます。

鉄鋼業界におきましては、震災復興需要が期待されますものの、アジア鉄鋼需給の軟調をはじめ、高水準が続く輸入鋼材、製造業向けの需要減など、依然として厳しい状況が続くものと思われます。

このような情勢のもと、当社グループは、早期の黒字化に向け、引き続き「鉄源の多様化」や「電気炉材の適用拡大」など収益改善策を推進してまいります。また、生産規模に応じた必要最小限の操業体制をとるなど、徹底的に「コスト削減」に取り組んでまいります。さらには、遊休土地の活用による賃貸借契約の推進、事業の選択と集中などで着実に収益を積み上げてまいります。なお、不透明な環境のもと、現在策定中であります抜本的収益改善計画につきましては、早期に取りまとめて実行してまいります。

アモルファス事業につきましては、本年11月1日にアモルファス部を新設し、平成23年10月に営業を開始しております高感度、高速応答の磁歪（磁性材料に外部から磁界をかけると材料が伸びたり縮んだり変形する現

象）式回転トルクセンサの拡販やアモルファス皮膜薄板の開発などに取り組んでまいります。

当社グループは、前連結会計年度において3期にわたる業績不振と当第2四半期純損失を計上し、また、借入金元本の返済猶予を受けていることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しておりますが、当社としましては、早期に収益基盤を構築するために抜本的収益改善計画を鋭意検討し、実行できるものから取り組んでまいります。

当社グループにおきましては、今後とも、新日鐵住金グループ殿とのアライアンスの強化や、当社グループの全国拠点を最大限に活用し、お客様に密着した品質・納期面でのきめ細かな対応を図り、顧客満足度の向上を推進してまいります。また、経営環境の変化にスピーディーに対応しながら、全社一丸となって、早期の収益回復に努めてまいる所存であります。

株主の皆様におかれましては、以上の諸事情をご賢察のうえ、今後とも何卒ご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

連結業績の推移

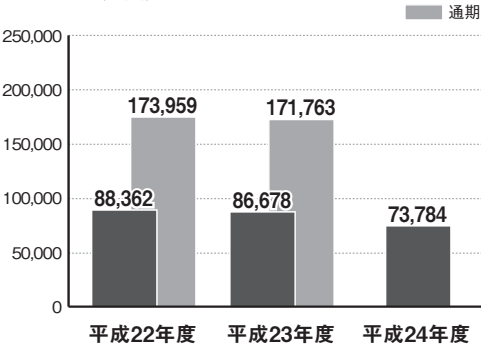
(平成24年9月30日現在)

財産および損益の状況

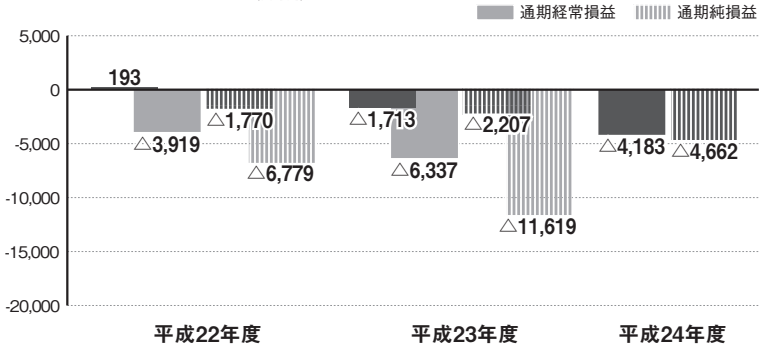
区分	年度・期	平成22年度		平成23年度		平成24年度
		上期	通期	上期	通期	上期
売上高	(百万円)	88,362	173,959	86,678	171,763	73,784
経常損益	(百万円)	193	△3,919	△1,713	△6,337	△4,183
当期(中間)純損益	(百万円)	△1,770	△6,779	△2,207	△11,619	△4,662
1株当たり当期(中間)純損益	(円)	△13.76	△52.66	△17.15	△90.27	△36.22
総資産	(百万円)	222,053	215,322	206,251	204,786	195,006
純資産	(百万円)	63,820	59,209	56,791	49,672	43,514
有利子負債	(百万円)	98,163	95,145	91,818	102,378	101,676

(注) △は損失を示しております。

■ 売上高 (百万円)

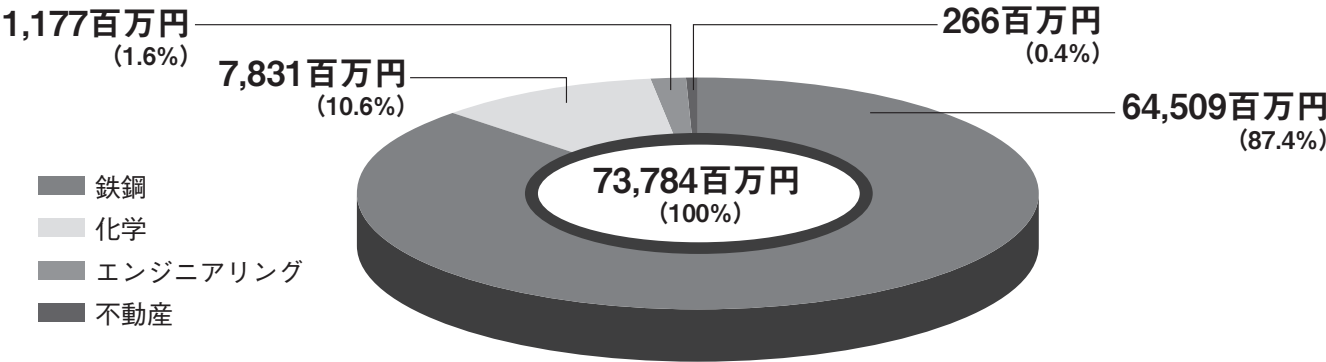


■ 経常損益と当期純損益 (百万円)



セグメント別連結売上高

(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)



連結財務諸表の概要

連結貸借対照表 (平成24年9月30日現在)

(単位: 百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	79,284	流動負債	95,035
現金及び預金	21,698	支払手形及び買掛金	16,836
受取手形及び売掛金	31,719	短期借入金	71,702
商品及び製品	11,803	未払金	3,307
仕掛品	2,445	未払費用	1,572
原材料及び貯蔵品	9,570	未払法人税等	385
繰延税金資産	284	賞与引当金	423
その他	2,085	事業構造改善引当金	9
貸倒引当金	△323	その他	798
固定資産	115,721	固定負債	56,456
有形固定資産	108,805	長期借入金	29,973
建物及び構築物(純額)	15,419	繰延税金負債	7,060
機械及び装置(純額)	28,026	再評価に係る繰延税金負債	9,883
土地	63,341	退職給付引当金	2,567
その他(純額)	2,018	役員退職慰労引当金	77
無形固定資産	803	環境対策引当金	176
投資その他の資産	6,112	特別修繕引当金	10
投資有価証券	3,576	事業構造改善引当金	2,372
繰延税金資産	15	負債のれん	2,903
その他	2,644	その他	1,430
貸倒引当金	△123	負債合計	151,491
資産合計	195,006	(純資産の部)	
		株主資本	6,538
		資本金	15,538
		資本剰余金	10,338
		利益剰余金	△18,739
		自己株式	△598
		その他の包括利益累計額	17,666
		その他有価証券評価差額金	455
		繰延ヘッジ損益	△256
		土地再評価差額金	17,466
		少数株主持分	19,308
		純資産合計	43,514
		負債純資産合計	195,006

連結キャッシュ・フロー計算書 (平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)

(単位: 百万円)

科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,420
投資活動によるキャッシュ・フロー	750
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,719
現金及び現金同等物に係る換算差額	△5
現金及び現金同等物の増加額	7,446
現金及び現金同等物の期首残高	14,251
現金及び現金同等物の四半期末残高	21,698

(注) 記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書 (平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)

(単位: 百万円)

科 目	金 額
売上高	73,784
売上原価	69,962
売上総利益	3,821
販売費及び一般管理費	7,119
販売費	3,294
一般管理費	3,824
営業損失	3,297
営業外収益	602
受取利息	8
受取配当金	74
負債のれん償却額	164
不動産賃貸料	142
持分法による投資利益	7
その他	205
営業外費用	1,488
支払利息	822
その他	666
経常損失	4,183
特別利益	1,337
負債のれん発生益	896
投資有価証券売却益	337
固定資産売却益	104
特別損失	1,762
減損損失	376
退職給付費用	375
固定資産売却損	323
固定資産除却損	286
特別退職金	227
棚卸資産評価損	162
事業構造改善引当金繰入額	9
税金等調整前四半期純損失	4,608
法人税、住民税及び事業税	361
法人税等調整額	△316
少数株主損益調整前四半期純損失	4,653
少数株主利益	8
四半期純損失	4,662

一般社団法人 日本鉄鋼連盟主催 第74回自主管理活動発表大会「感動賞」受賞

本年9月、一般社団法人 日本鉄鋼連盟主催の第74回自主管理活動発表大会が横浜市で開催されました。全国の鉄鋼各社から52件の事例発表が行われ、当社の代表として発表した2件のうち1件が、同大会最高賞の「感動賞」と「優秀発表賞」をダブル受賞いたしました。

当社は、平成18年第68回自主管理活動発表大会以来、7年間連続で感動賞を受賞しております。

今後もJK活動を通し、問題点に対する鋭い感受性と、改善を成し遂げる情熱を培い、職場の活性化をすすめてまいります。

当社の同大会における受賞履歴 (件)

年度	全発表数	当社発表数	受賞数		
			感動大賞	感動賞	優秀発表賞
H18	38	3	0	2	
H19	50	3	1	1	
H20	47	3	1	1	
H21	50	3	1	2	
H22	48	3	0	3	
H23	48	3	1	2	0
H24	52	2		1	1

※網掛けの年度は、同大会で最高賞を受賞した年です

CSR（企業の社会的責任）への取り組み

地元公道の清掃活動

当社では、良き企業市民としての責任を果たすために、平成4年から社屋前の公道をはじめ、地元の大正通りの清掃ボランティアを定期的の実施しております。本年11月には大阪市全域で活動された「大阪マラソン “クリーンUP”」に参加いたしました。今後も活動を続け、地域への社会貢献に努めてまいります。



小学生の工場見学

当社では、小学生が鉄鋼業に接し、学べる機会を増やすために積極的に工場見学の受け入れを実施しております。

本年11月には、菱屋西小学校（東大阪市）5年生が熱延工場を見学しました。製造現場の迫力に歓声があがり、熱心に見学をしていました。



会社の概要

(平成24年9月30日現在)

主要な事業内容

事業	主要品目		
鉄鋼事業	鋼材	鋼板	熱延鋼帯、厚板、中板、縞板、鍍金鋼帯
		条鋼	線材、バーインコイル、棒鋼、軽量C形鋼、パイプ、線材二次製品、高力ボルト
	鋼片、副産物等		
エンジニアリング事業	建設（建築総合工事）、海洋（鋼製魚礁・増殖礁）、ロール、バルブ、産業機械		
不動産事業	不動産の賃貸・売買		
化学事業	化学工業薬品		

会社設立 大正12年(1923年)12月22日

資本金 15,538,509,066円

従業員の状況

連結 1,522名
(当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む)
単独 705名
(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む)

主な事業所

[本社・船町工場]
〒551-8551 大阪市大正区船町一丁目1番66号
電話／06-6555-3111(総合案内) FAX／06-6555-3170

[東京営業所]
〒103-0027 東京都中央区日本橋二丁目15番5号
PMO日本橋二丁目 9階
電話／03-5204-3070 FAX／03-3516-7500

会計監査人 有限責任 あずさ監査法人

連結子会社 (8社)

中山三星建材株式会社、中山通商株式会社、三星商事株式会社
三星海運株式会社、南海化学株式会社、中山興産株式会社
三泉シヤー株式会社、富士アミドケミカル株式会社

持分法適用会社 (1社)

株式会社NSボルテン

役員

代表取締役社長	藤井博務
取締役	箱守一昭
取締役	渡邊秀幸
取締役	吉村敏
取締役	山本有男
取締役	松岡雅啓
監査役(常勤)	笹部隆夫
監査役	福西惟次
監査役	榎本比呂志

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領 株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領 株主確定日	毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座 管理機関	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 電話 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
公告の方法	電子公告 http://www.nakayama-steel.co.jp/ ただし、電子公告によることができない 事故その他のやむを得ない事由が生じた ときは、日本経済新聞に掲載して行う。

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取・買増請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

単元未満株式をご所有の株主様へ 単元未満株式(1～999株)の買取・買増制度のご案内

当社では、市場でお取引できない単元未満株式(1～999株)の買取制度および買増制度を採用しております。手数料は無料ですので、ぜひご活用ください。

※買取制度：ご所有の単元未満株式(1～999株)を当社が買い取らせていただく制度です。

買増制度：単元未満株式をご所有の場合に、あわせて1,000株にするのに必要な株式を当社から市場価格で買い増しすることができる制度です。

特別口座で株式をご所有の株主様へ

2009年1月5日から実施された株券の電子化に際して、株式会社証券保管振替機構（株券を証券会社を通じて「ほふり」に預託）をご利用されなかった当社株式につきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社に開設された「特別口座」にその内容が記録されました。

特別口座においては、単元未満株式の買取をご利用の場合を除き、株式を売買することができませんので、特別口座で株式をご所有の株主様におかれましては、ご所有の当社株式を証券会社のお取引口座へお振替えされることをおすすめいたします。

【お問い合わせ先】

＜証券会社等の口座に株式をご所有の株主様＞
口座を開設されている証券会社等

＜特別口座で株式をご所有の株主様＞
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部



**NAKAYAMA
STEEL WORKS, LTD.**

<http://www.nakayama-steel.co.jp/>



この冊子は環境に配慮した植物油インキを使用しています。